

平成27年度 学校評価シート

学校名： 有田中央高等学校 学校長名： 河本好史 印

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	「地域社会の中核を担う若者を育てる」 1. 明るい家庭を築き、地域の活性化に貢献する若者 2. 職業人として地域の産業を支え、地域の発展に尽くす若者 3. 地域の行事や活動に参画し、地域のつながりや絆づくりに励む若者
------------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1. 知識基盤社会のなかで生きていくために必要となる学力獲得に繋がる学習指導の徹底と、地域社会の中核を担う若者の育成に結びつくキャリア教育の充実
	2. 自らの将来や社会全体を意識した行動規範の確立と、自他の可能性を尊重し合う、希望にあふれた学び舎の創造
	3. 教員の資質向上を伴った組織的な学校運営と、学校外の活力をいかした教育活動の充実による学校力の質的転換

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
学校HP等で公表している。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 (3月4日現在)		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3月4日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	学習指導における教員の授業力向上や授業規律の確立への取組は更に進み、全職員に浸透している。しかし、基礎学力の定着等は未だ不十分である。また意欲的な生徒への学力向上の機会を準備する。キャリア教育において3年間を見通したキャリア教育の編成等は整備が進み、就職内定率が100%を達成するなど実績を出している。しかし、中退や早期離職者の減少には、生徒に生き方・在り方を深めさせる取組の更なる充実が必要である。	生徒の課題や発達段階に応じた取組や指導がなされ、具体的な成果に繋がっており、また、「その生徒の未来に向けて」意欲が高まっているか。	学力面の課題克服に向け授業力の更なる向上を図る 「学び直し」の授業展開等基礎学力の定着を図る 意欲的な生徒への学力向上を図る プロセスと結果を重視した進路指導の徹底。 体験的学習の充実による、生き方・在り方の深化	全教職員が研究・公開授業を3回以上実施 「学び直し」の自主教材作成 学力上位層のカリキュラム及び学習集団の検討 3年生全員進路内定 有中版デュアルシステムに年2回、6名以上の参加	・アクティブラーニングを進めるため校種間をこえた学習形態の研究を深めることができた。 ・「学び直し」の自主教材を作成できた。 ・学力上位層の学力向上に向けてカリキュラム及び学習集団の検討を進めた。 ・デュアルシステムへの参加は2年生の2名が3月に参加し、企業側から好評いただいた。 ・現在就職に於いて5名が未定である。	B	・「授業改善」に向けての全般的な体制を再構築し、アクティブラーニングの校内での活用を進めていく。 ・「学び直し」の教材について校内での活用を進めていく。 ・学力上位層の伸長クラスに向けた取り組みを進める ・全教職員の本校進路キャリア教育への理解と参画を促していく。
2	生徒理解が深まり、改善されるまで徹底する生徒指導と自己有用感を高める生徒支援を両輪とした取組により、前向きな生徒が多く育ち、学校全体の活力も高まっている。深刻で多岐にわたる課題を抱えた生徒が年々増え、教員一人ひとりの指導力の向上や組織的な対応の更なる充実が求められる。また生徒の力を信じ自主性を重んじた活動を支持し、自立を目指す。	教員一人ひとりが生徒と真摯に向き合い、生徒の課題克服に向けた実効性のある指導を行っているか。組織的な対応を更に充実させているか。また、自立を促しているか。	身だしなみ指導の徹底 自己有用感や共生を育む指導の充実 リーダー育成及び部活動の活性化 生徒の課題への組織的対応力の向上 学校開き・クラス開き・ようこそ有田中央へ(縦割り)	「スカートひざ丈」、「化粧一掃」の徹底 生き方・在り方を深めることに繋がる具体的な教育活動の実施 リーダー育成の取組を年6回実施 2年生の部活動参加率50%以上 ケース会議の即時開催(3時間ルール)の徹底 数々の困難を乗り越えた生徒達が自分の想いを伝えられるか、また周りを通して自己、他者理解を深める	・身だしなみ指導アセンブリー(年10回)で徹底できた。 ・12月の「生きる会」や、卒業式予行で3年生が1・2年生にメッセージを送った。 ・生徒会やキャプテンを中心に校内での行事・県生連の大会・校外でのいろいろな場面で活躍してくれた。2年生のクラブ活動参加率(50、4%)は目標を達成した。 1年生のクラブ活動参加率(76、3%)は高い値でした。 ・今年度も支援・指導が必要などに即時ケース会議を行い、対応をした。	A	・全ての教職員が指導していく体制と「反省ノート」指導のさらなる充実を行う。 ・次年度も教員・生徒からの働きかけでよりいっそう生き方・在り方を深める教育活動を実施していく。 ・次年度もリーダーたちが主体的に動き、活躍できるような取組にしていく。 ・ケース会議の運営方法を検討し、スピード化を図る。
3	授業力向上等の教員の資質向上につながるOJTが機能し、教職員の協同性・同僚性が向上するとともに、地域との連携が進み、一定の評価を得るようになった。学校の情報発信力をさらに強化し、保護者や外部の力を活用した教育活動に向けた質的向上を引き続き図る必要がある。	教職員の協同性・同僚性の向上と、地域との連携を主体的に進めているか。	ミドルリーダー等をチューターとするゼミ等の取組 本校の魅力や教育力についての理解を高める 地域協育会の活動への教員・生徒の主体的な参画	授業改善Gを核としたゼミ(協議)を年6回以上実施 学校PRビデオの制作とHP内容の充実 地域協育会の7つの部会の活動実績を前年比30%増	・向上ゼミの実施は目標を達成できなかった。 ・PRビデオは中学生に対する説明会等で好評を博した。 HPは情報の適時更新を図っている。 ・部会によっては達成できないところもある。	B	・向上ゼミの運営方法の検討を行い、より実施・参加がしやすくなる必要がある。 ・PRビデオ等の内容についてさらなる充実を図っていく。 ・地域協育会会員が参加しやすい方法や手立てを工夫していく。

学校関係者評価
平成27年12月16日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
○授業改善の取組については概ね評価を得ている。とりわけ、特別支援教育の観点からの指導の研究や工夫を行い、分かりやすい授業に努めていることについてたき高い評価を得ている。しかしながら、基礎学力の定着については、自己評価と同様に、改善を求める要望もあった。 ○本校の進路キャリア教育については、昨年に引き続き進路の内定率が非常に高いこともあり、高い評価を得ている。一方で、進学、就職両面に於いて求められる学力の養成についてはさらに改善の余地有りとの指摘があった。 ○本校のミッション「地域社会の中核を担う若者を育てる」に基づき、身だしなみについて、昨年に引き続き「化粧の禁止」や「スカート丈」について徹底した指導に取り組んでいる。このような指導については、よく理解を得ている。一方で、「生徒には指導の意図を十分に理解させてからの指導が必要である。」との意見もあった。 ○生徒の活動や行事について、年々活発になっている、と評価していただいている。1年生の部活動の必修や、リーダーの育成、「生き方・在り方」について考えさせる教育活動の推進等の本校の取組が成果を収めつつあると考える。一方で、部活動の活性化等でさらなる充実を求める要望もある。

